

ストップ! レジ袋

エコたん

「レジ袋の削減」という言葉をよく耳にするようになり、全国でその活動が広がっています。レジ袋削減の目的を知り、一人ひとりの活動で地球の環境を守りましょう。

レジ袋の現状

現在、日本国内では年間300億枚ものレジ袋を消費しています。これを人口で割ると、国民1人あたり年間約300枚使っている計算となり、そのほとんどはごみとして捨てられてしまいます。消費されるレジ袋の量を減らすため、小売業者に対してレジ袋の有料化などの取り組みを求める「改正容器包装リサイクル法」が平成18年に施行されましたが、コストおよび効率面でリスクがあるため、なかなか進展していないのが現状です。

ごみの減少

使い終わったレジ袋のほとんどがそのまま廃棄され、ごみとなっています。レジ袋をはじめとする容器・包装は、家庭から出るごみのうち約6割という大部分を占めています。また、レジ袋に水気の多い生ごみを入れることでも、ごみの重量を増やしています。

レジ袋のごみを減らし、生ごみは水切りネットで水気を切ってから出すことで、家庭から出るごみの量を減らすことができます。

石油資源を守る

レジ袋の原料はポリエチレンなどの合成樹脂で、つまりレジ袋は石油から作られるプラスチック製品です。レジ袋1枚を作るのに必要な石油は約20mlで、年間300億枚のレジ袋を消費しているとすると、 $300\text{億枚} \times 20\text{ml} = 60\text{万キロリットル}$ （2リットルのペットボトル30億本分）の石油が使われている計算となります。レジ袋を使わなければ、それだけの石油の使用が削減されることとなります。

自然界への影響

レジ袋の中には、土に返ることができず自然界に残ってしまうものがあります。山や川、海などに捨てられたレジ袋を野生の動物・魚が飲み込み、窒息するといった問題も起きており、飲み込んだレジ袋を胃で分解できずに命を落とすといったケースも見られます。

ごみとして出されたレジ袋を焼却すると、CO₂が排出され地球温暖化の原因となってしまいます。

市民の皆さんの活動



8月7日に、ドミー高浜店で高浜市生活学校の皆さんによるレジ袋削減キャンペーンが行なわれました。来店した方々に水切りネットやチラシを手渡し、レジ袋削減への協力を呼びかけました。

マイバッグを使いましょう

レジ袋をもらう代わりに、買い物にはマイバッグを持参しましょう。お店によっては、スタンプやポイントの付与などの特典があります。一般的なトートタイプの他にも、買い物かごにすっぽり入る形のものや、保冷・保温機能の付いたものなどがありますので、自分に合ったマイバッグを探してみましょう。

また、傘布や着なくなった服を使って作ったり、自分だけのオリジナルデザインのバッグを作って楽しむのもいいかもしれませんね。

問合せ先 市民生活グループ ☎52-1111（内線265）